

上場会社名 株式会社タムラ製作所
証券コード 6768
東京証券取引所 第一部上場

株式会社タムラ製作所

2017年3月期 第2四半期決算概要

2016年11月8日



TAMURA

Your One and Only Company

1. 2017年3月期 第2四半期決算概要
2. 2017年3月期 通期業績予想
3. トピックス
4. 製品情報

1. 2017年3月期 第2四半期決算概要

- 売上高は円高の影響もあり微減収ながら、収益性の向上に努めて営業利益は増益。
- 営業外で為替差損が発生するも、経常利益・親会社株主帰属四半期純利益は増益。

[百万円]

	15上	15下	16上	前年同期 増減額	前年同期 比
売上高	41,731	42,911	40,497	△1,234	97%
営業利益	1,948	2,318	2,585	637	133%
営業外損益	△18	△319	△ 492	△473	—
経常利益	1,929	1,998	2,093	164	109%
特別損益	△78	△291	△ 131	△53	—
税引前利益	1,851	1,707	1,962	111	106%
親会社株主帰属 四半期純利益	1,232	551	1,392	160	113%

16上 期中平均実績為替レート \$1= 104円 20銭
 16上 期中平均社内為替レート \$1= 106円 32銭
 16上 期末日実績為替レート \$1= 101円 12銭
 16上 期首 計画為替レート \$1= 115円

営業利益の増減分析【15上実績 vs 16上実績】

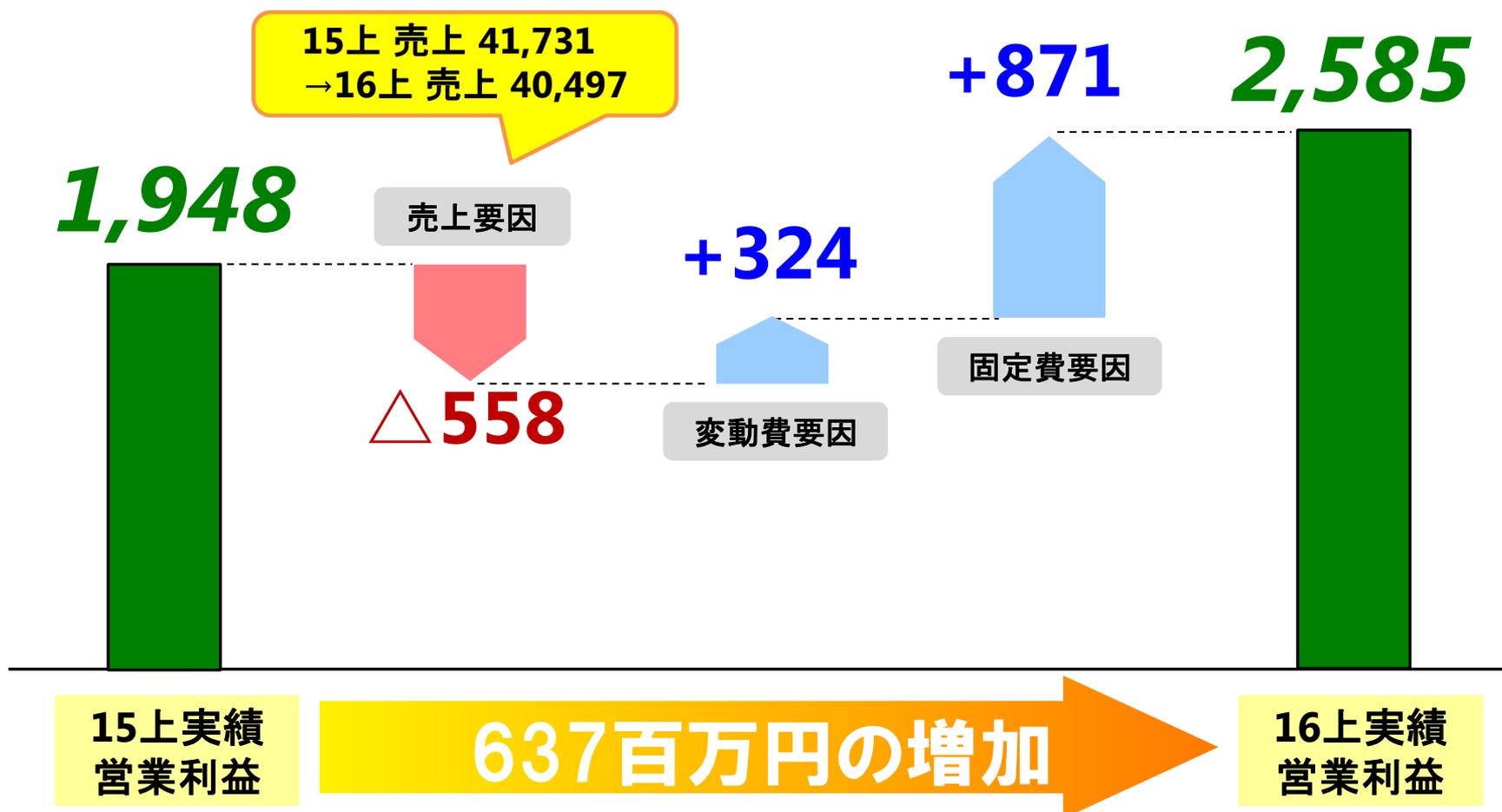
売上要因

戦略市場向け製品が堅調に推移するも、円高の影響もあり減収

変動費・固定費要因

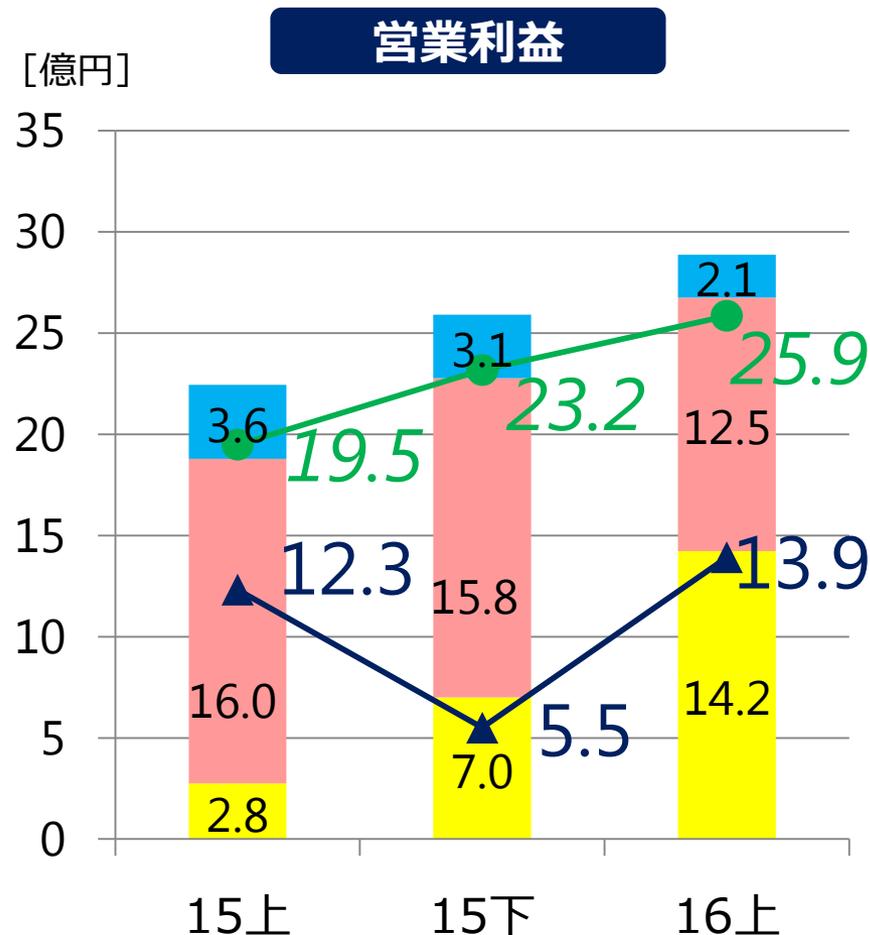
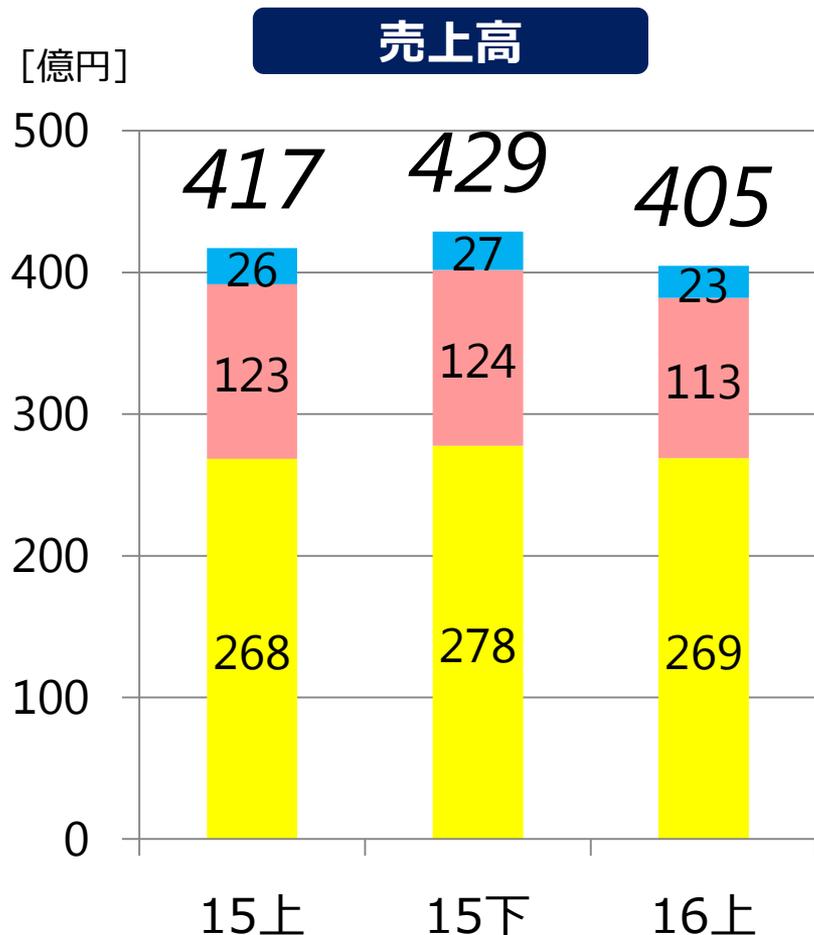
構造改革や原価低減により増益

[百万円]



事業部門別の売上高・損益推移

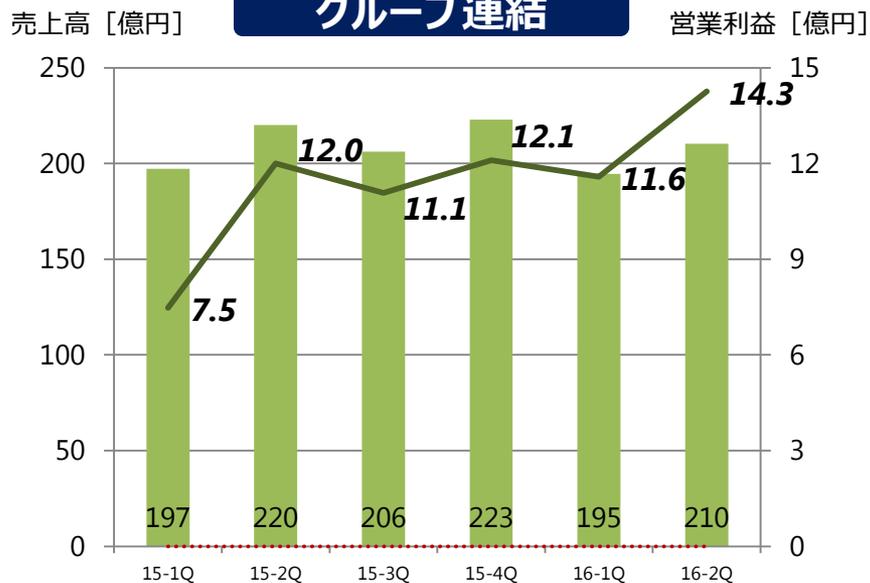
- 電子部品：構造改革や為替対策、原価低減により収益向上を図り大幅増益
- 電子化学実装：市場の停滞および円高が影響し、減収減益
- 情報機器：放送機器は堅調に推移。セキュリティ機器の需要は一巡して減少。



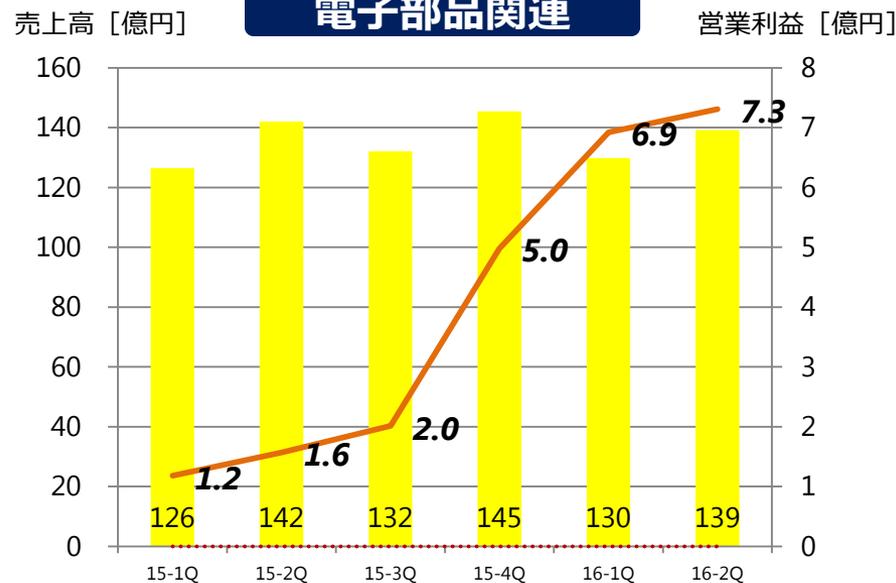
■ 電子部品関連事業 ■ 電子化学実装関連事業 ■ 情報機器関連事業 ● 営業利益 ▲ 純利益

事業部門別の売上高・損益 (四半期推移)

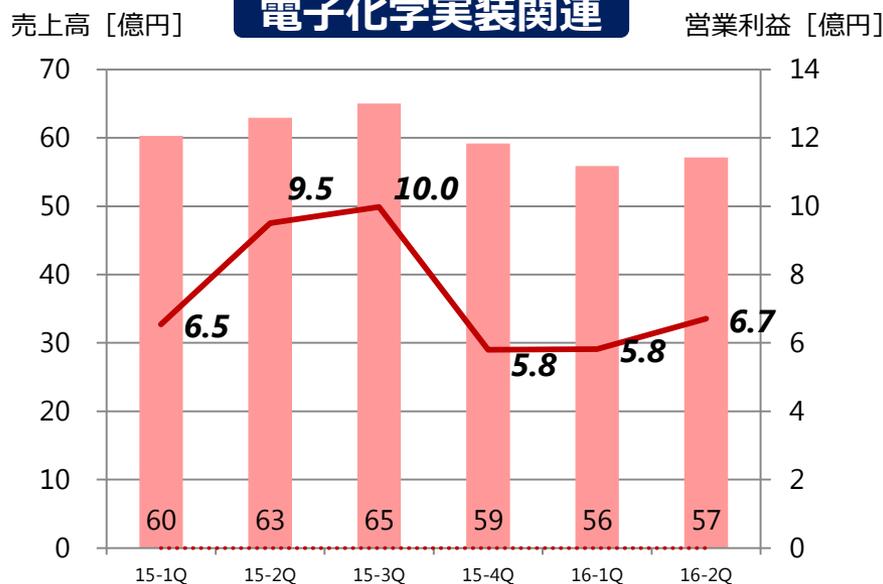
グループ連結



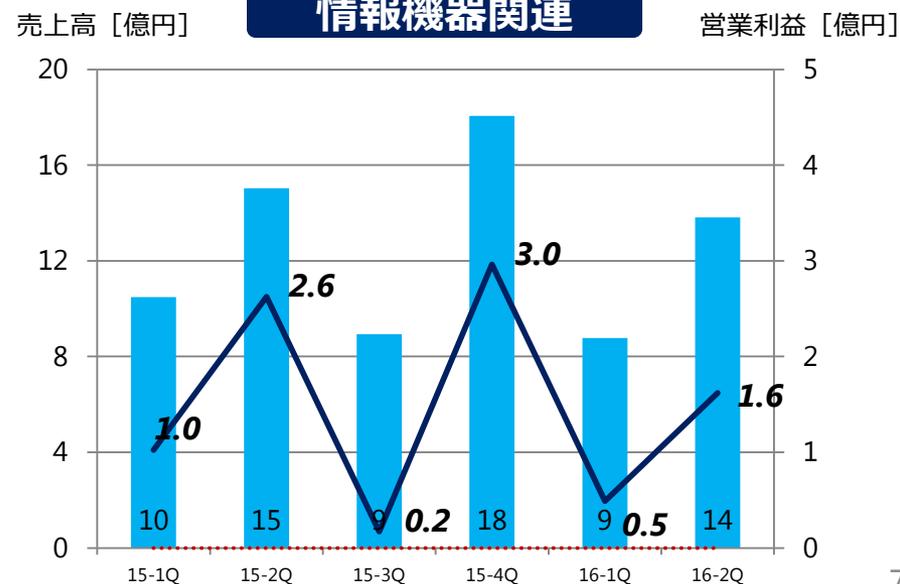
電子部品関連



電子化学実装関連

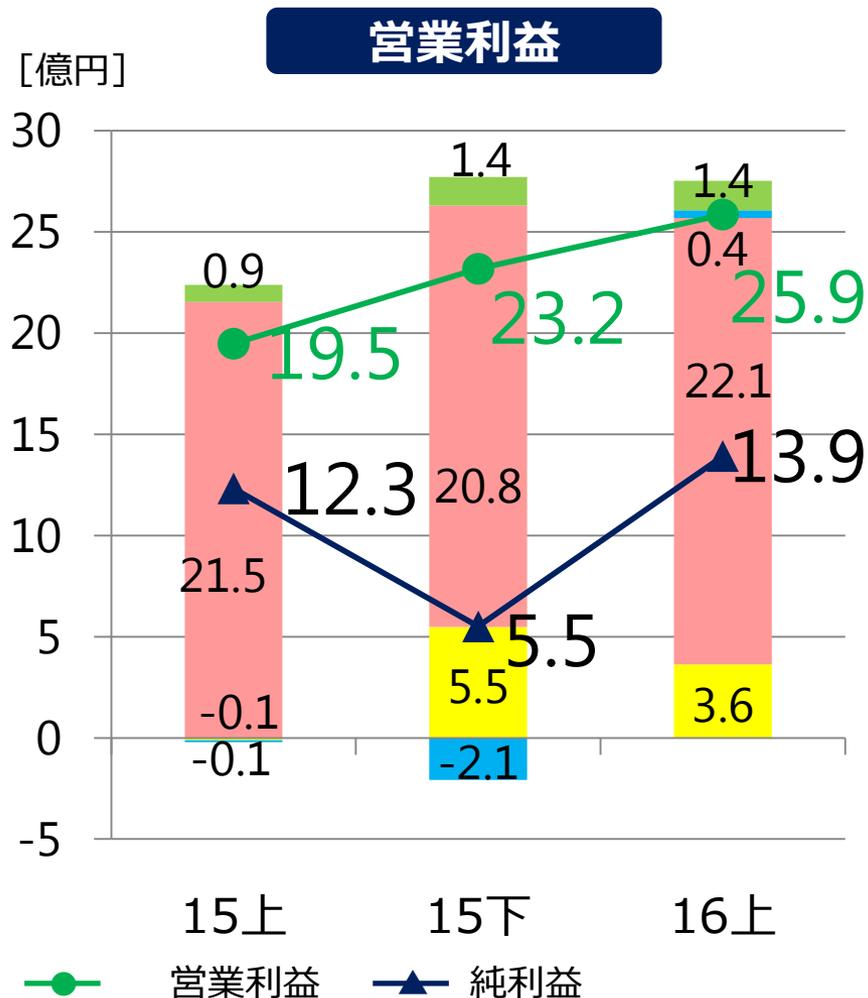
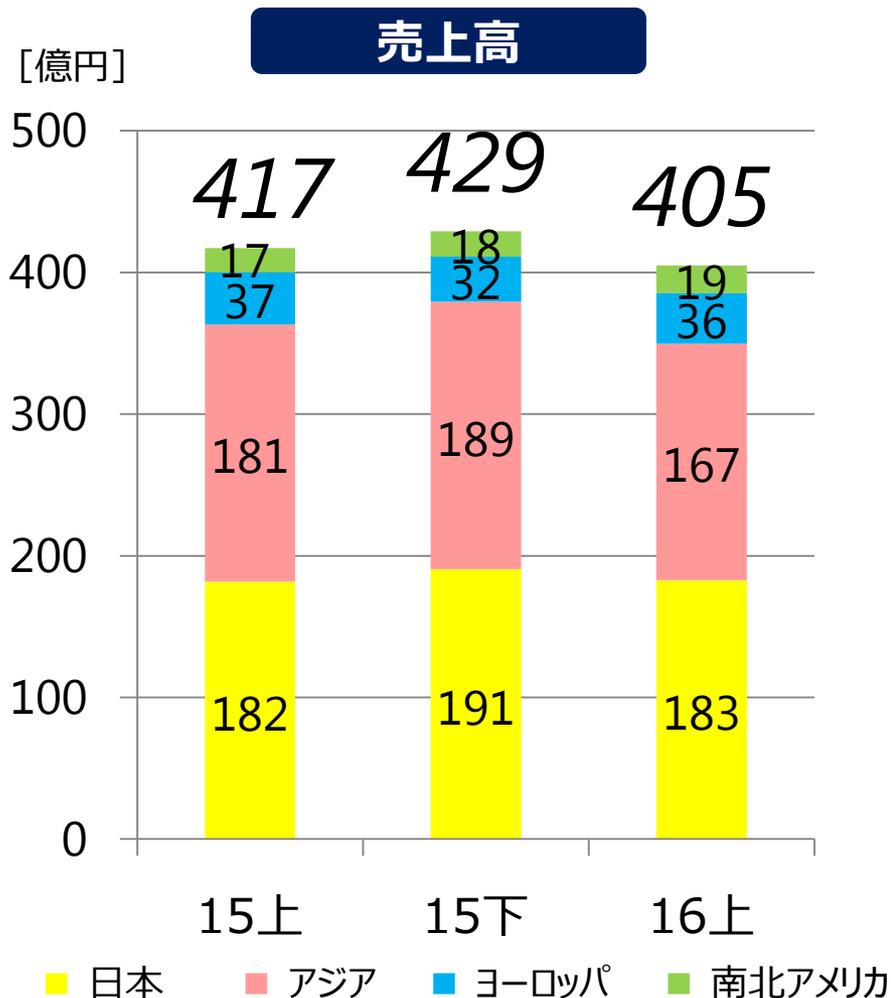


情報機器関連



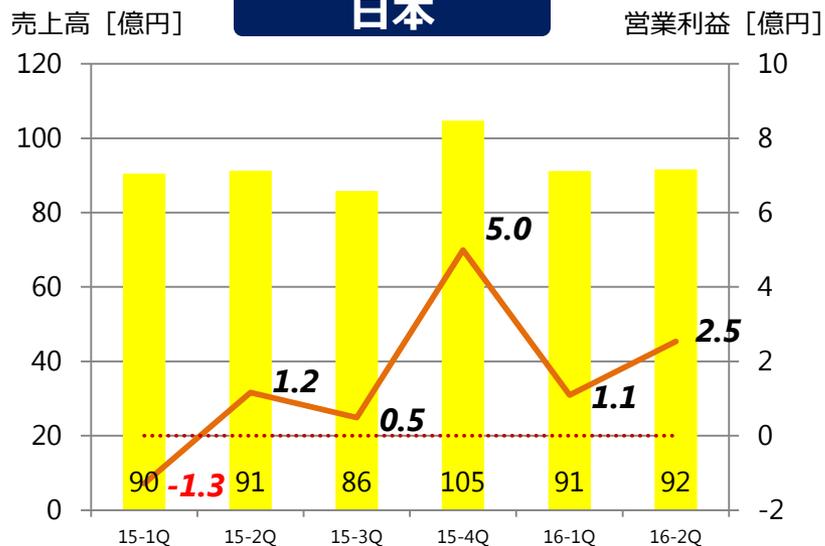
地域別の売上高・損益推移

- 日本：日本向け取引の多い情報機器事業の減収減益の影響はあるが、黒字確保
- アジア：円高もあり減収するも、中国エリアをはじめとした工場の収益性が改善し増益
- 欧米：構造改革効果およびエネルギー関連の復調で、わずかなるも黒字化

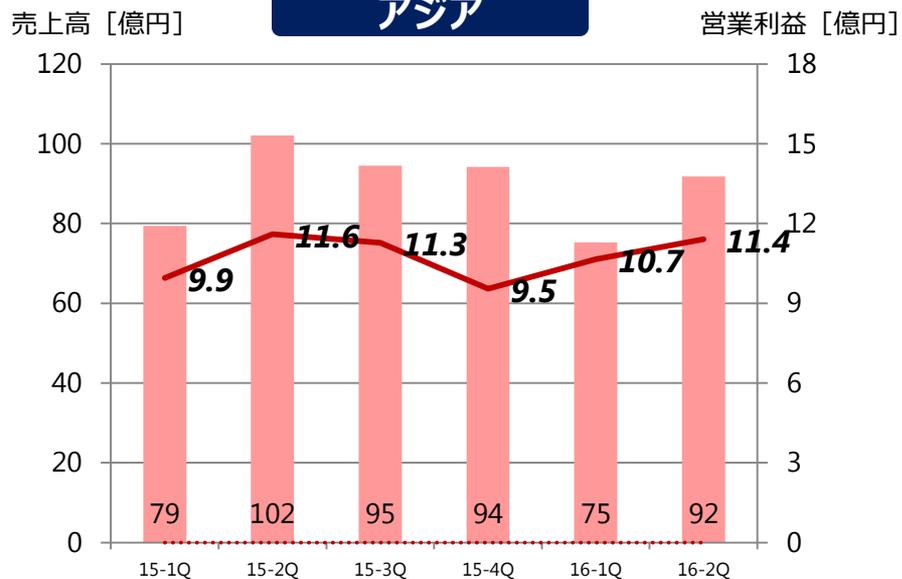


地域別の売上高・損益（四半期推移）

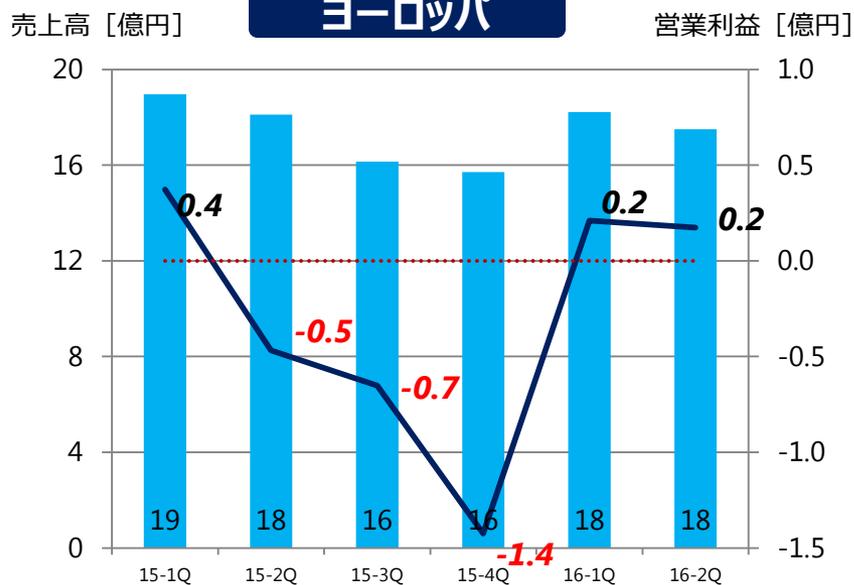
日本



アジア



ヨーロッパ



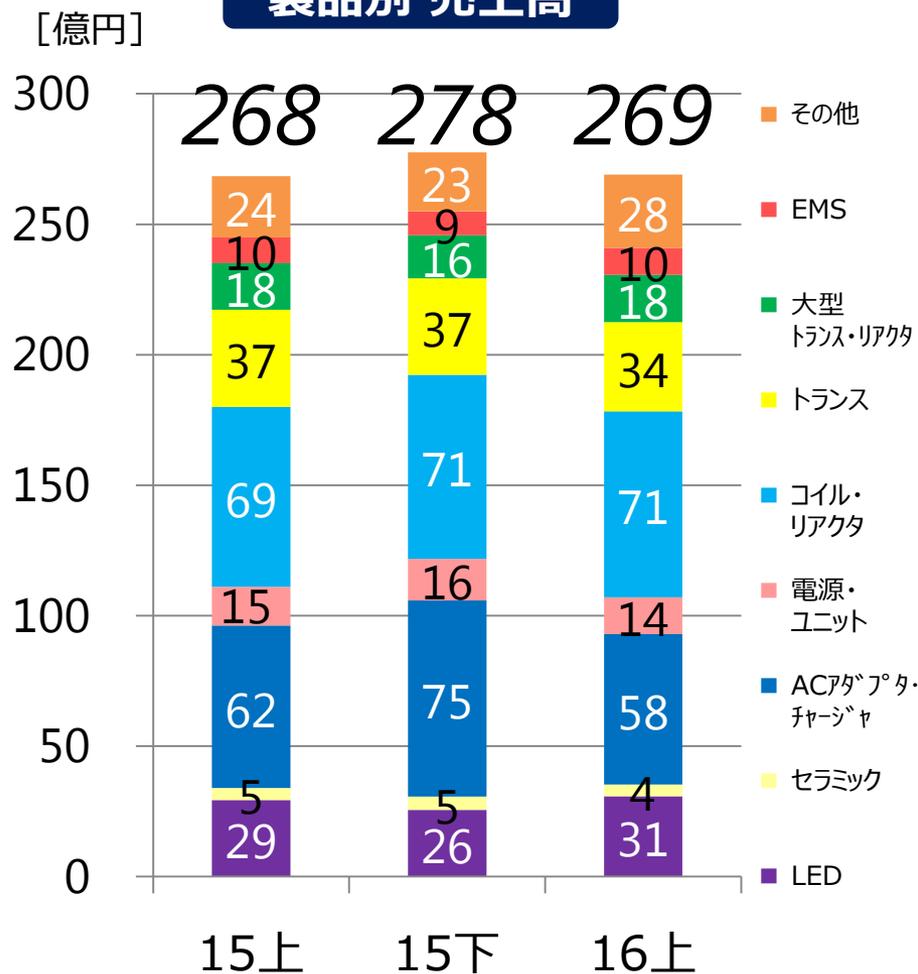
アメリカ



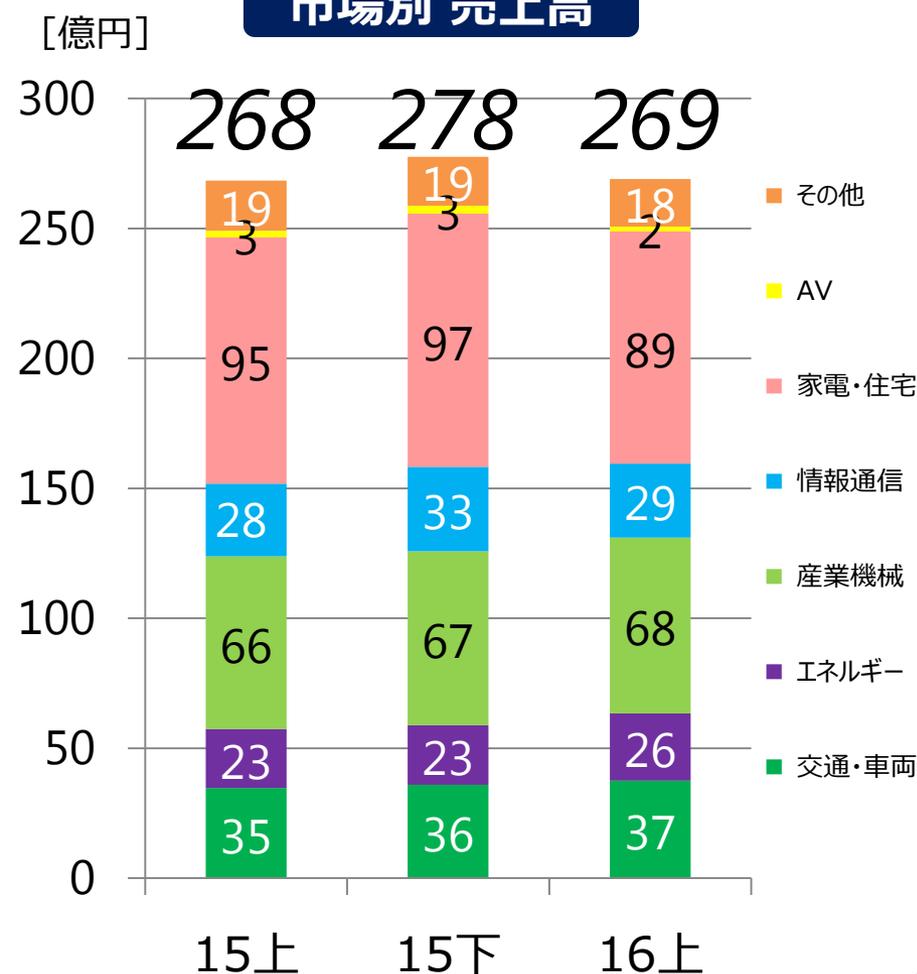
電子部品関連事業の売上高推移

- エアコン関連は、猛暑予想に伴う増産や顧客開拓により堅調に推移
- LED関連は、自動販売機向けモジュールの売上が拡大
- 産業機械やエネルギー関連は、市場の復調もあり堅調に推移

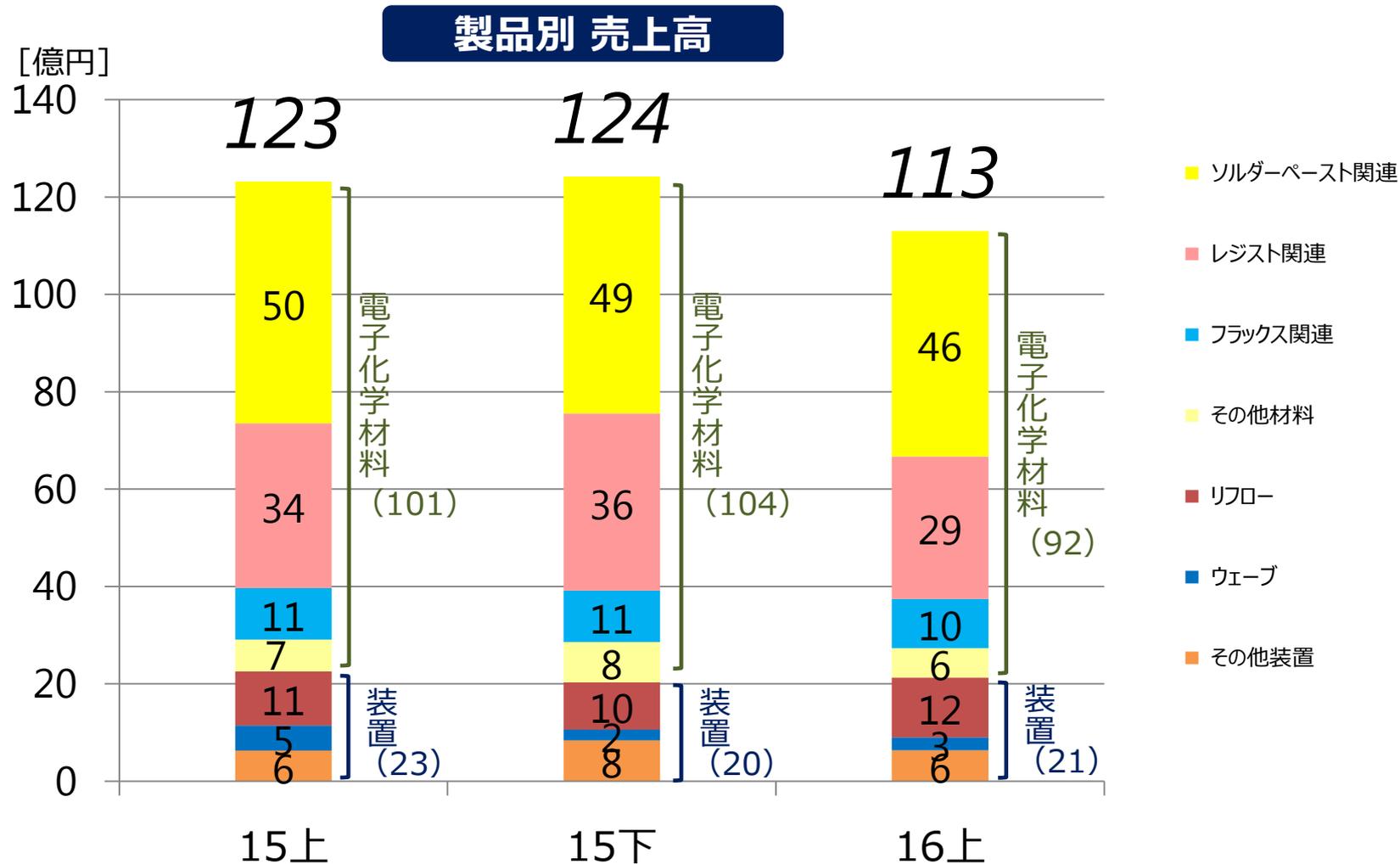
製品別 売上高



市場別 売上高



- 電子化学事業は、夏場よりスマートフォン新モデル向けの生産が上向きで推移
- 実装装置事業は、自動車関連やスマートフォン向けにデュアルリフロー装置が堅調



貸借対照表（要約）

- 総資産は45.2億円減少
- 有利子負債は6.5億円減少。純資産は増益も為替換算マイナスで21.4億円減少

[百万円]

	15/9	16/3	16/9	対16/3
流動資産	52,008	51,647	48,882	△2,764
（現預金）	13,478	15,133	16,836	1,703
（売上債権）	21,508	21,518	19,514	△2,003
（棚卸資産）	14,462	12,532	10,505	△2,027 ※1
（その他流動資産）	2,559	2,463	2,026	△437
固定資産	27,393	25,141	23,381	△1,759
（有形固定資産）	19,935	19,003	17,526	△1,477
（無形固定資産）	1,367	1,195	1,016	△178
（投資、その他）	6,090	4,941	4,838	△103
資産合計	79,402	76,788	72,264	△4,524
流動負債	25,540	26,017	21,442	△4,575 ※2
（仕入債務）	11,124	10,844	9,583	△1,261
固定負債	14,628	14,322	16,518	2,195 ※3
〔有利子負債〕	21,518	20,611	19,957	△653
負債計	40,168	40,339	37,960	△2,379
純資産合計	39,233	36,448	34,303	△2,144 ※4
負債・純資産合計	79,402	76,788	72,264	△4,524

■ 主な増減

※1 棚卸資産 △2,027

商品及び製品△1,054

※2 流動負債 △4,575

一年内返済長期借入金 △2,623
（返済△4,015、
長期からの振替+1,391）

※3 固定負債 +2,195

長期借入金 +2,397
（借入+3,789、短期への振替△1,391）

※4 純資産 △2,144

利益剰余金 +1,089
（親株主純利益+1,392、配当△328
新規連結+28）
為替換算調整勘定 △3,311

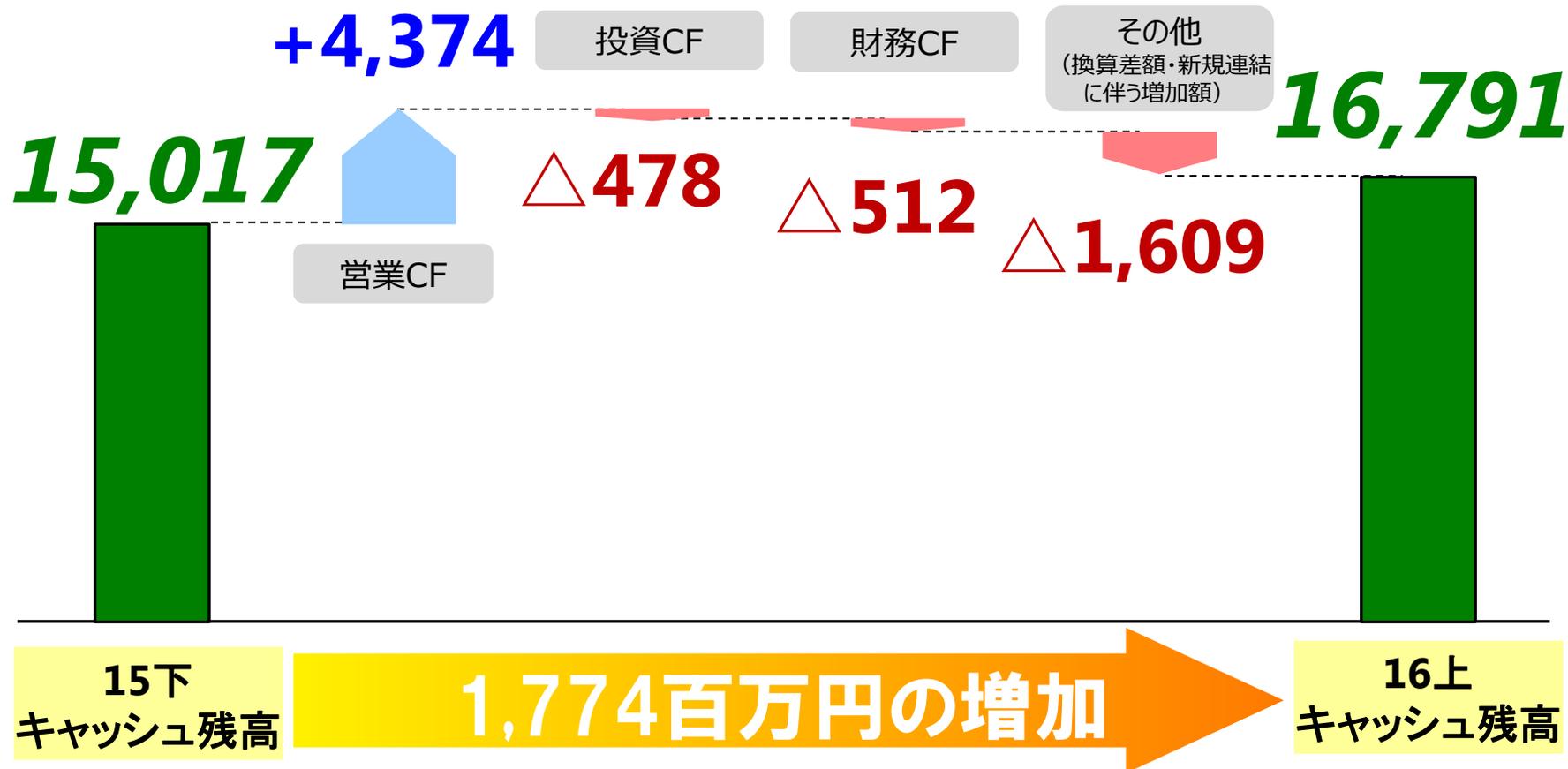
キャッシュフロー（要約）

- 営業CF：売上債権および棚卸資産が減少
 - 投資CF：前年同期比で固定資産取得による支出が減少
 - 財務CF：主に長期借入金の返済による支出
- } キャッシュは34億円増加

	15上	15下	16上	[百万円] 前年同期 増減額
営業活動によるキャッシュフロー	4,492	3,852	4,374	△117
投資活動によるキャッシュフロー	△974	△1,224	△ 478	496
フリーキャッシュフロー	3,517	2,628	3,896	379
財務活動によるキャッシュフロー	△1,641	△1,033	△ 512	1,129
キャッシュの増減	1,664	1,662	1,774	109
キャッシュの残高	13,354	15,017	16,791	3,436

キャッシュフローの増減分析【15下実績 vs 16上実績】

[百万円]



2. 2017年3月期 通期業績予想

- 昨今の円高進行を踏まえて、2016年5月10日に公表した通期業績予想の売上高、経常利益、親会社株主帰属当期純利益を修正。
- 当初業績予想の為替レートは1ドル115円で想定したが、今回は1ドル100円で見直し。

[百万円]

	FY2015 通期 実績	FY2016 上期 実績	FY2016 下期 修正予想	FY2016 通期 修正予想	対前年 増減額	前期比	参考) FY2016 通期 期首予想
売上高	84,642	40,497	39,503	80,000	△4,642	95%	85,000
営業利益	4,266	2,585	1,915	4,500	234	105%	4,500
経常利益	3,928	2,093	1,907	4,000	72	102%	4,400
親会社株主帰属 当期純利益	1,783	1,392	1,308	2,700	917	151%	3,200
ROE	4.8%	-	-	7.6%	-	-	8.5%

16下 計画為替レート

\$1 = 100円

営業利益の増減分析【15実績 vs 16予想】

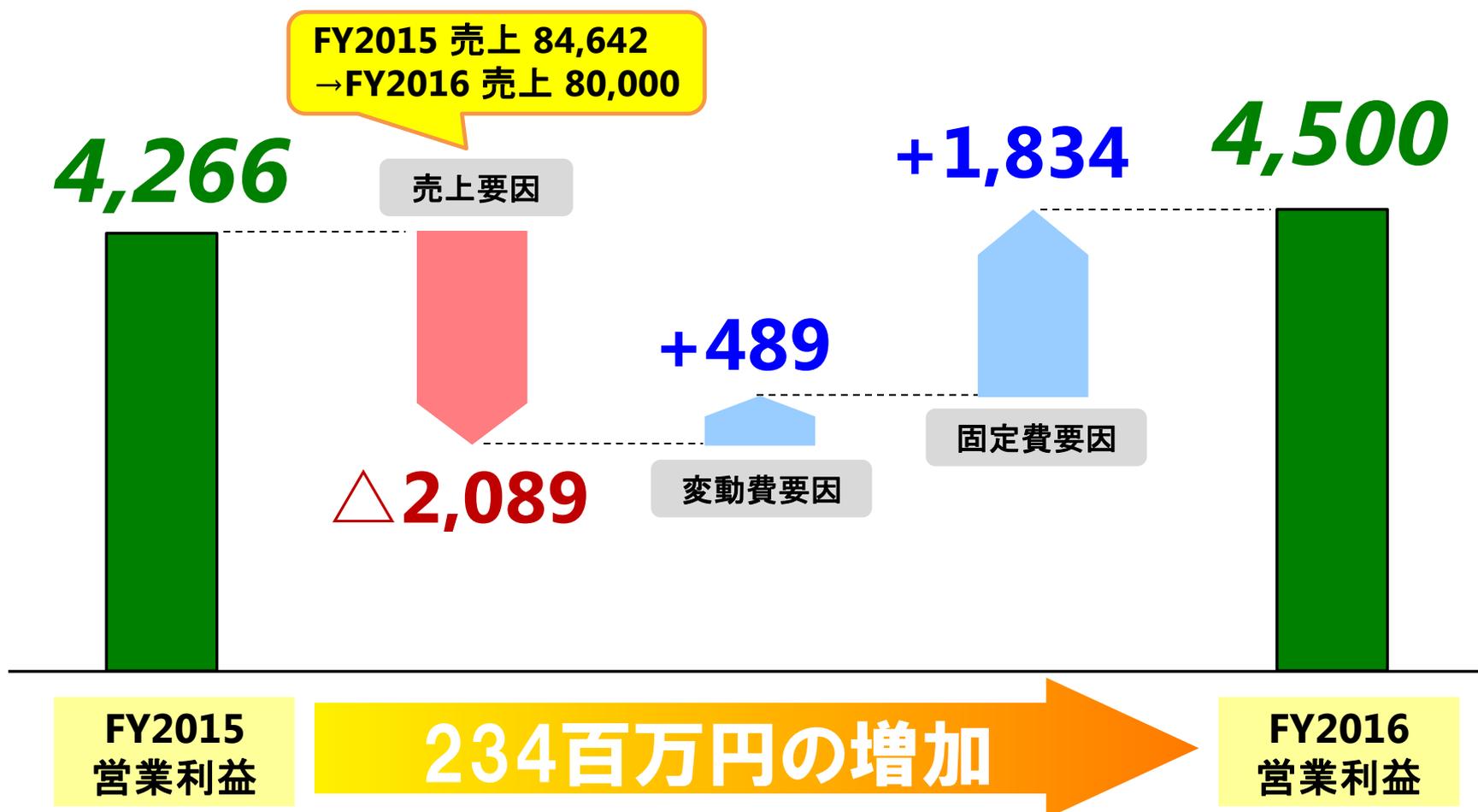
売上要因

主に円高の影響で減収

変動費・固定費要因

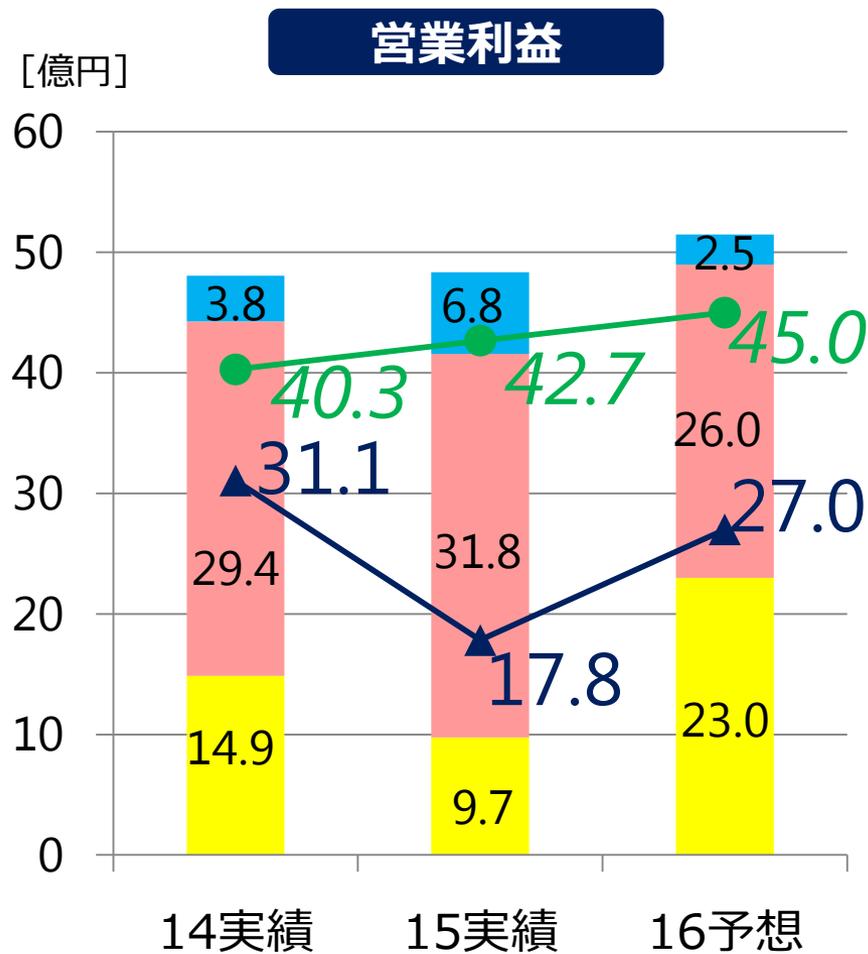
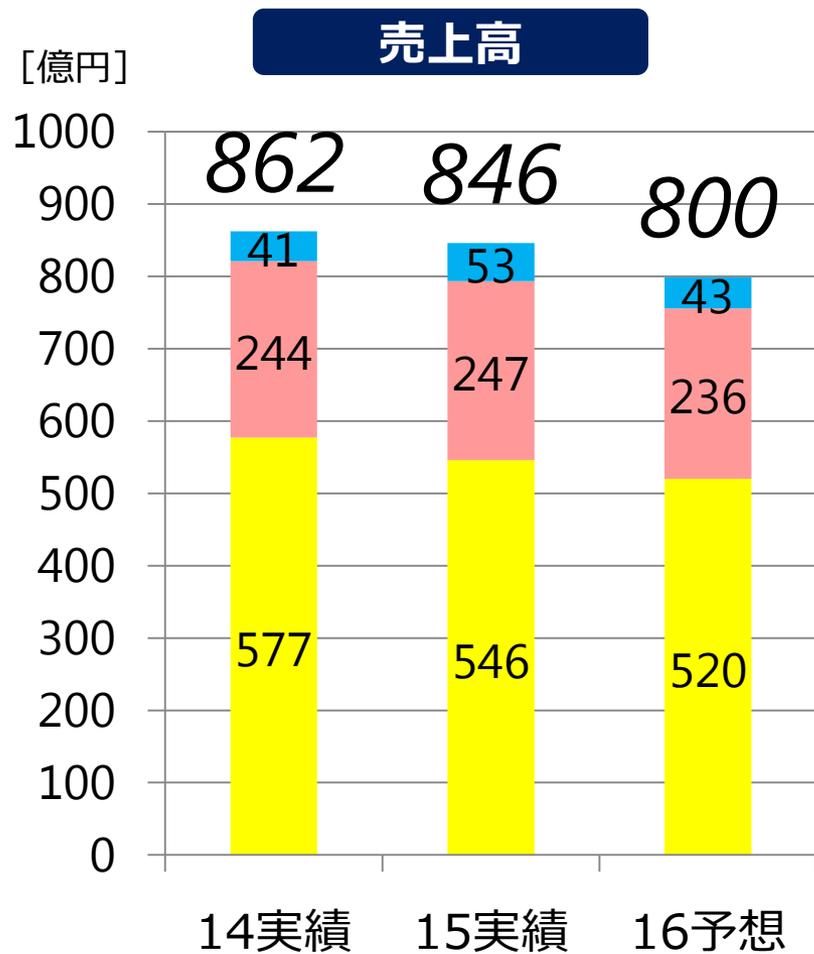
労働力の最適配置・原価低減・高付加価値品拡大により収益性を向上

[百万円]



事業部門別の売上高・損益見通し（年次）

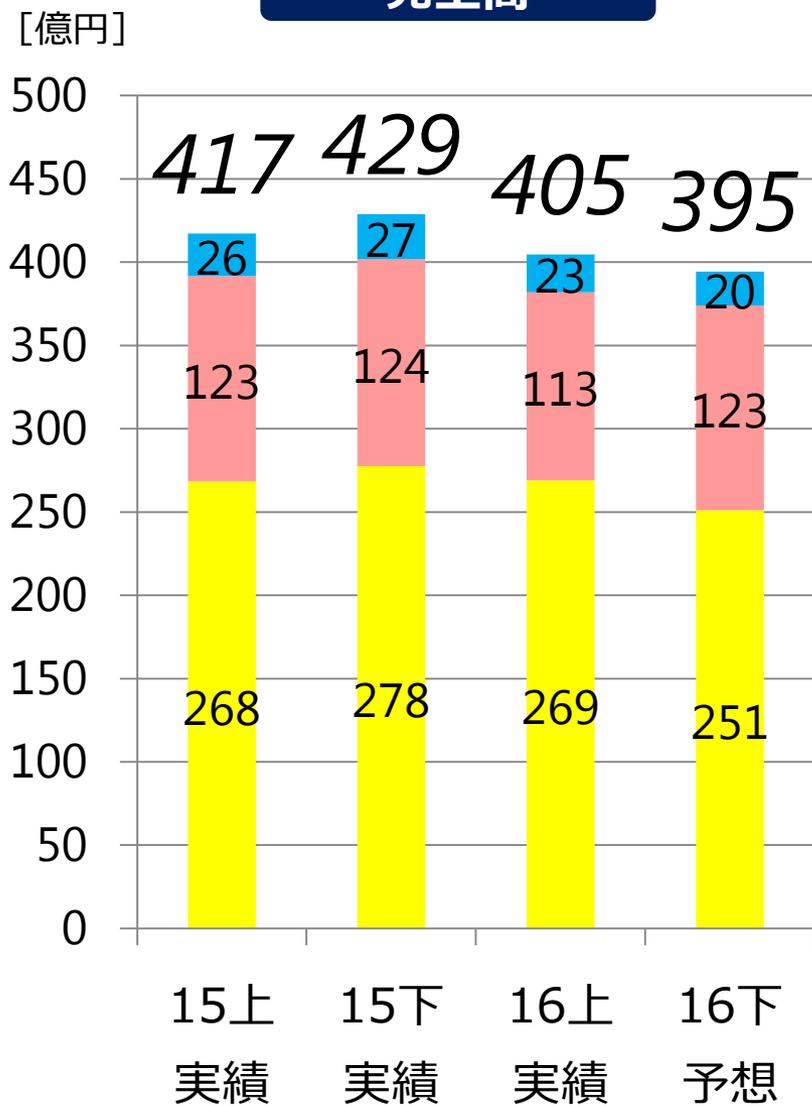
- 電子部品：戦略製品の販売・開発の強化及び、個別原価管理の徹底で安定収益確保
- 電子化学実装：為替影響を受けて減収減益。変動リスク対策を急ぐ。
- 情報機器：セキュリティ機器の需要が一巡し、減収減益の見通し



■ 電子部品関連事業 ■ 電子化学実装関連事業 ■ 情報機器関連事業 ● 営業利益 ▲ 純利益

事業部門別の売上高・損益見通し（半期）

売上高



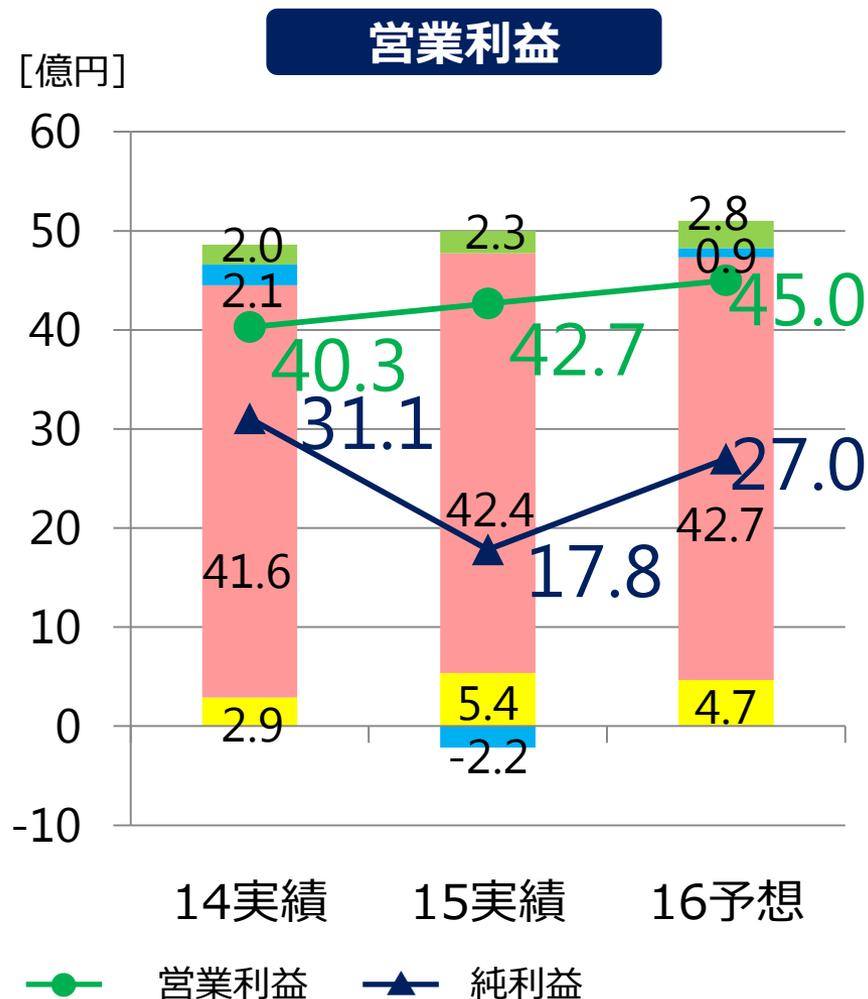
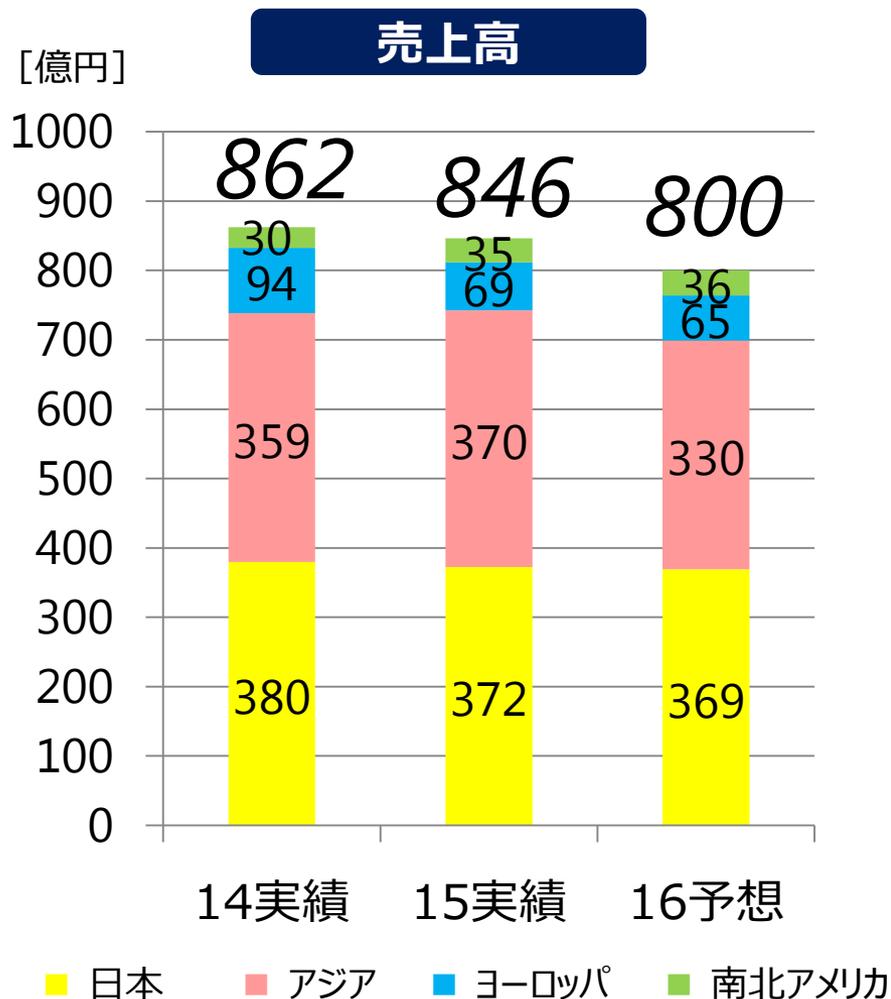
営業利益



■ 電子部品関連事業
 ■ 電子化学実装関連事業
 ■ 情報機器関連事業
 ● 営業利益
 ▲ 純利益

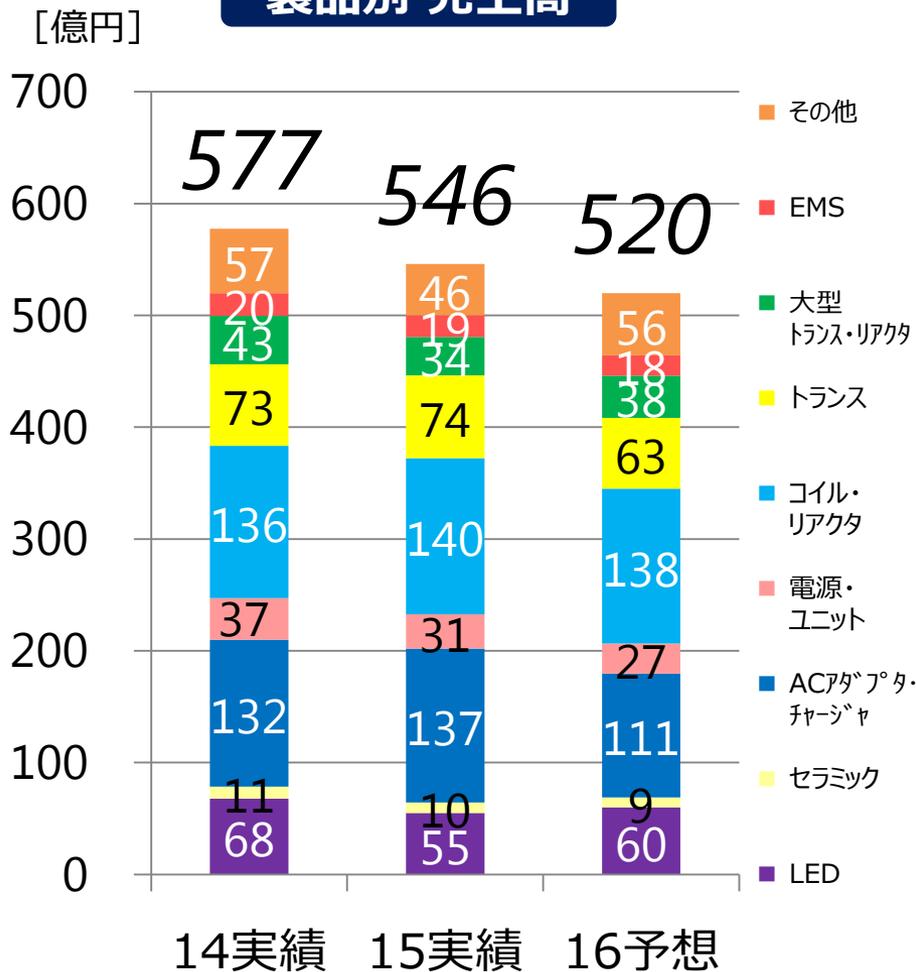
地域別の売上高・損益見通し

- 日本：情報機器事業におけるセキュリティ関連の需要が一服し、やや減収
- アジア：円高により減収ながら、中国をはじめとした工場の収益性改善により利益は維持
- 欧米：構造改革効果およびエネルギー市場への取り組みで黒字基調を維持

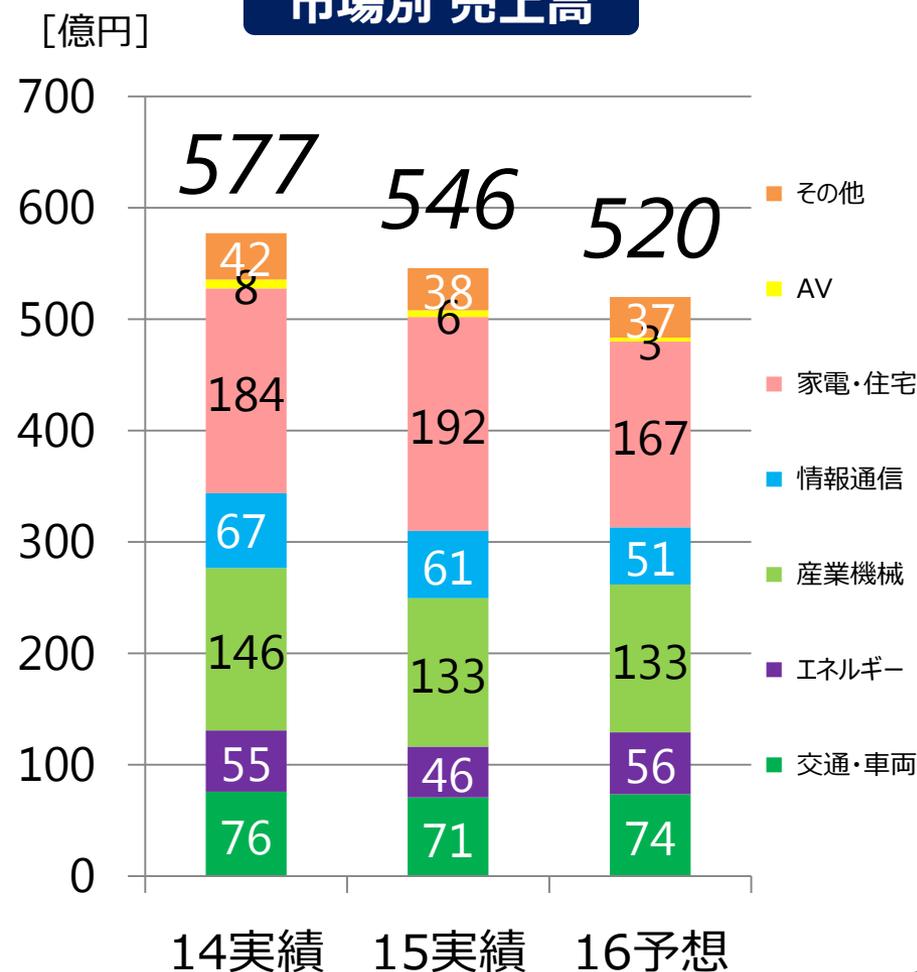


- 全般に為替の影響で減収だが、個別原価管理の徹底や地産地消で利益への影響は極小化。
- 昨年度より新モデル量産を開始した車載用リアクタは通年売上貢献
- 大型リアクタは当社技術の強みを生かせる送配電（HVDC）向けに集中

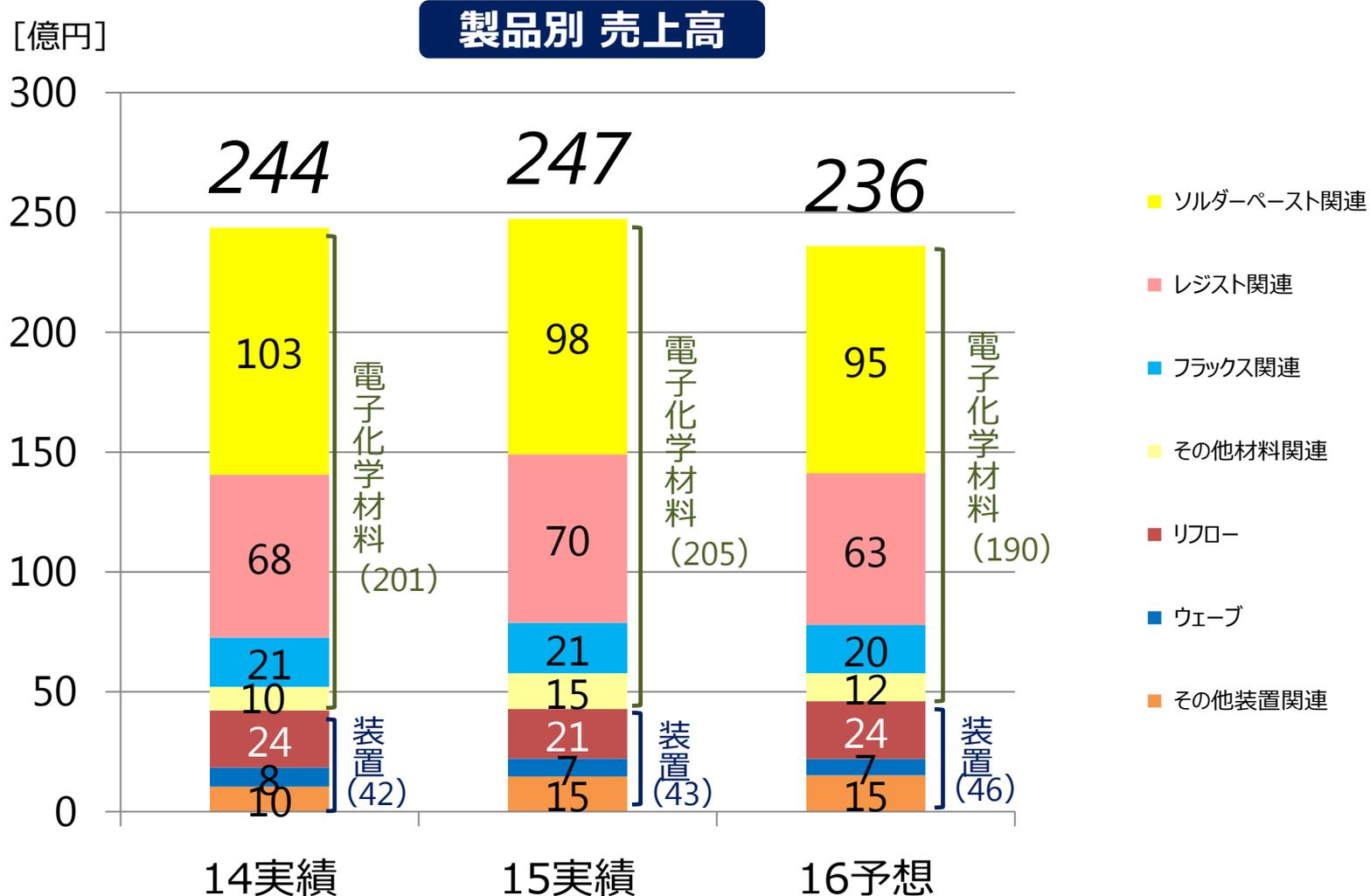
製品別 売上高



市場別 売上高



- 電子化学事業は、IoT（スマートフォン）・車載市場をターゲットに、開発・販売を展開
- 為替影響で減収するが、為替や素材などの変動リスク対策を推進
- 実装装置事業は、車載向けなどのニーズを取り込むと共に、保守サービス活動で安定収益確保

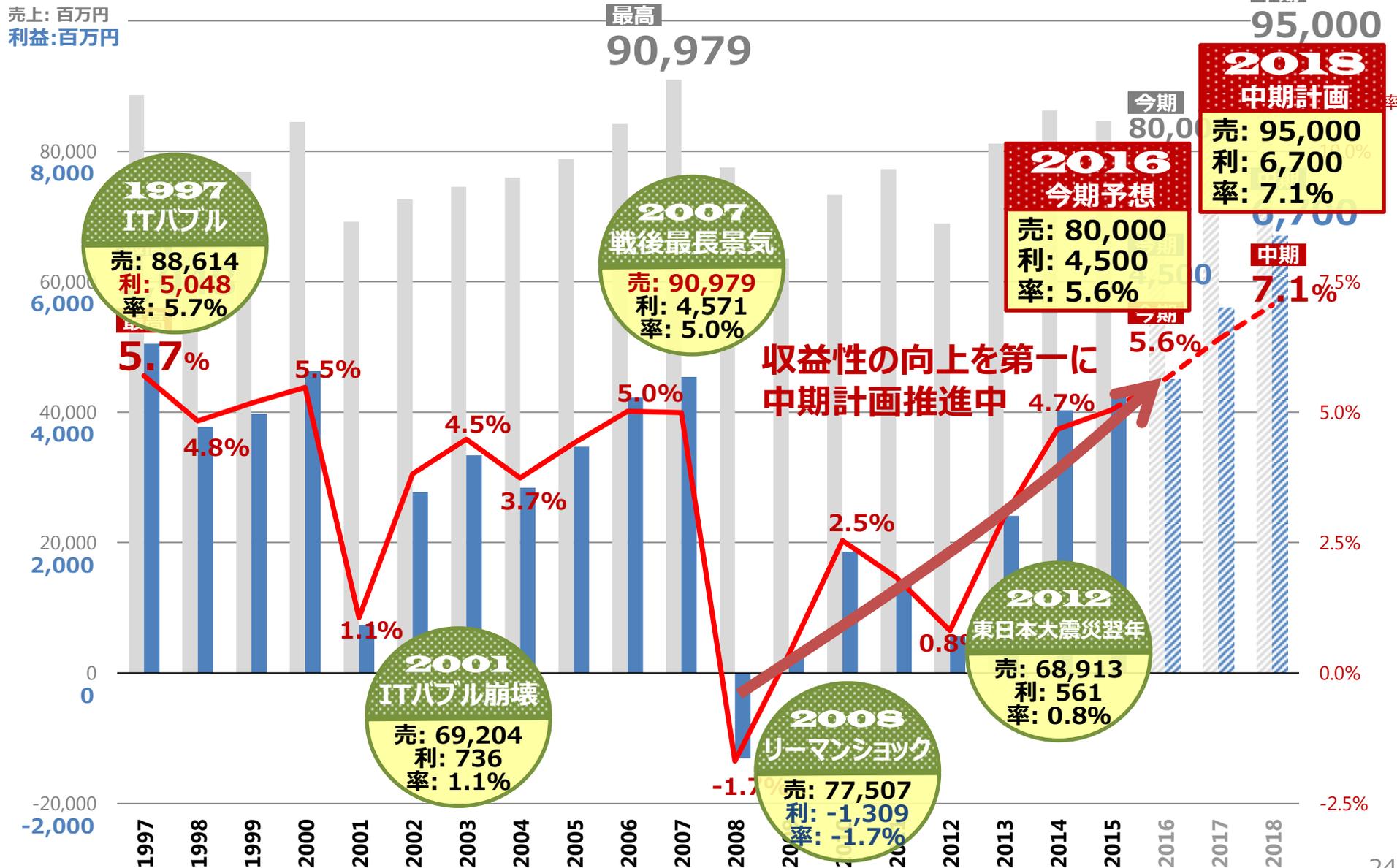


3. トピックス

タムラグループの業績推移

※下図は1997年以降の情報で整理しています。

■ 売上高 ■ 営業利益 — 営業利益率



電子部品事業の収益改善①

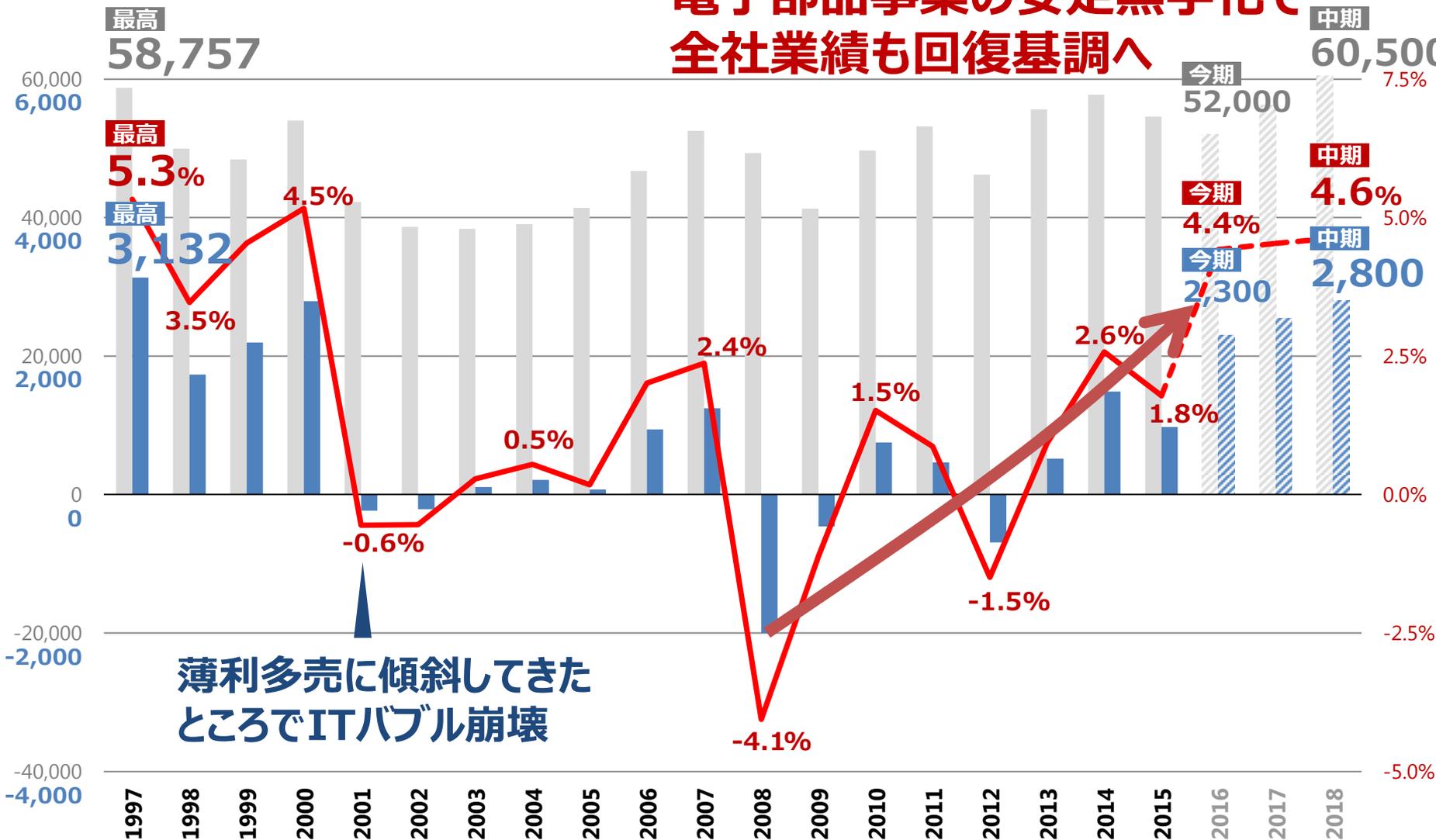
※下図は1997年以降の情報で整理しています。

売上高 営業利益 営業利益率

売上: 百万円
利益: 百万円

営業利益率

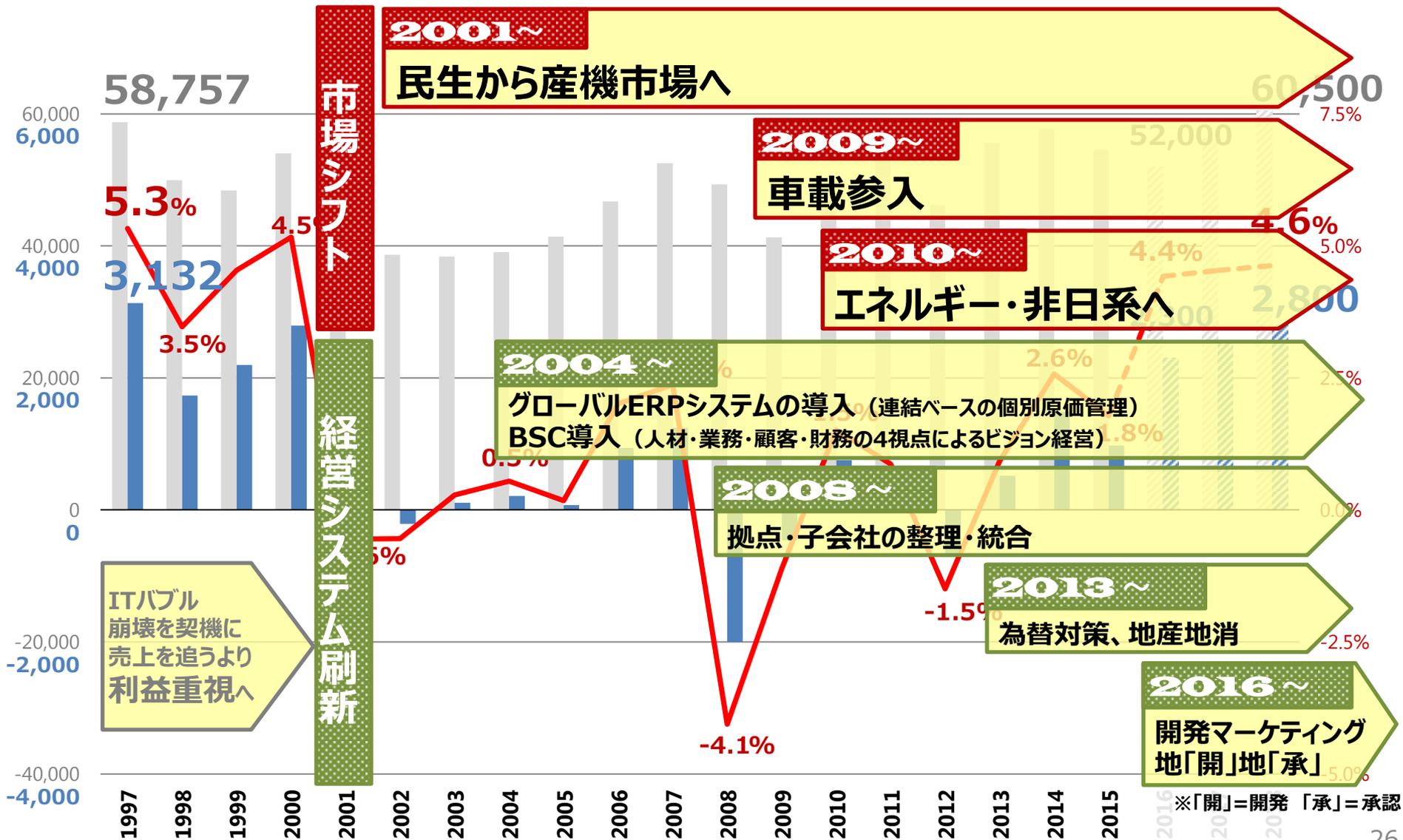
電子部品事業の安定黒字化で 全社業績も回復基調へ



薄利多売に傾斜してきた
ところでITバブル崩壊

電子部品事業の収益改善②

- タムラグループ内で最大の売上構成を占めるものの、低い収益性が課題。どのような市場環境でも揺らがない安定収益体質の確立を目指す。
- 足元では、昨今の為替変動にも耐えられる体制が実現できてきている。

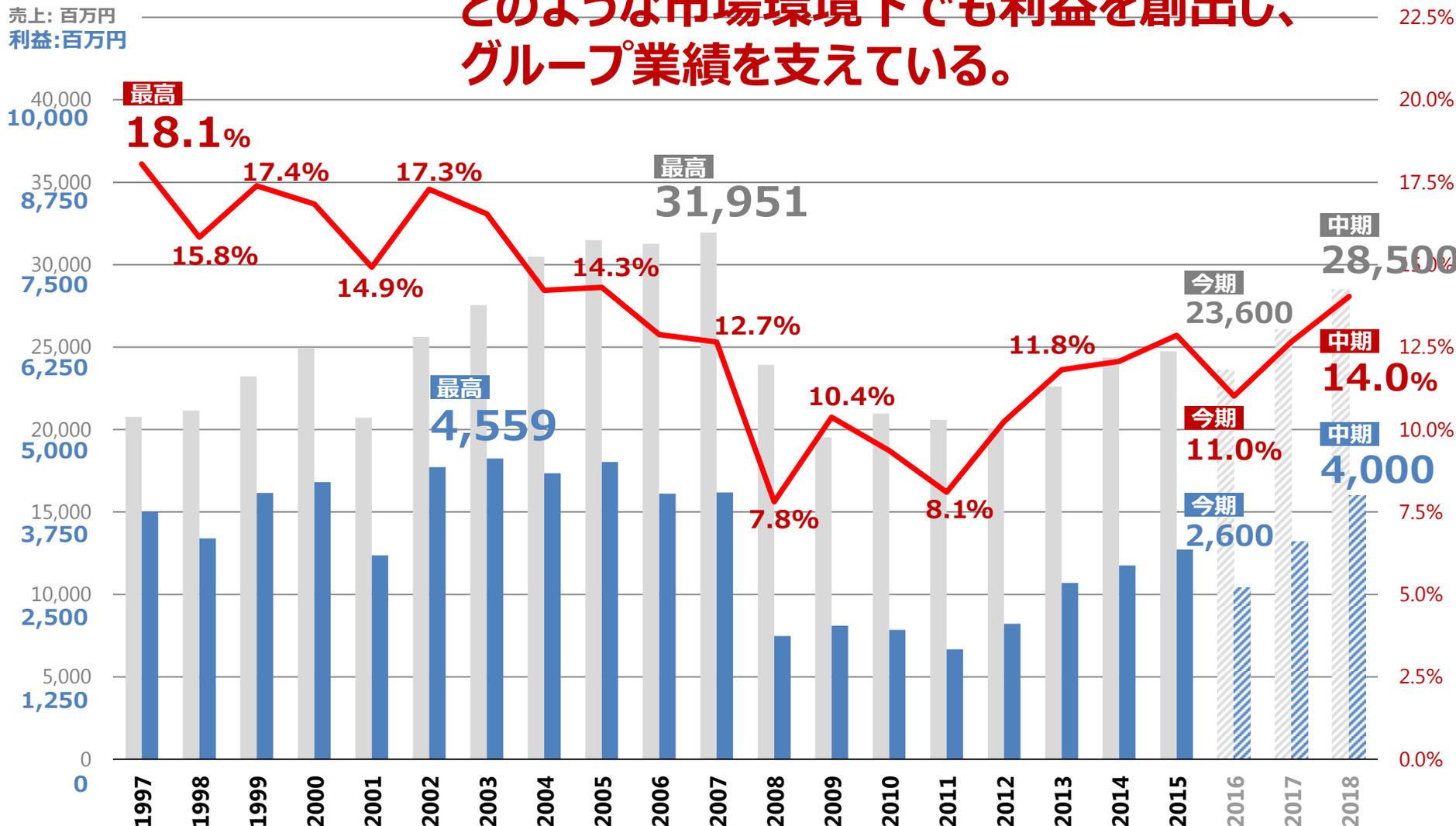


電子化学実装事業の業績推移①

※下図は1997年以降の情報で整理しています。

■ 売上高 ■ 営業利益 — 営業利益率

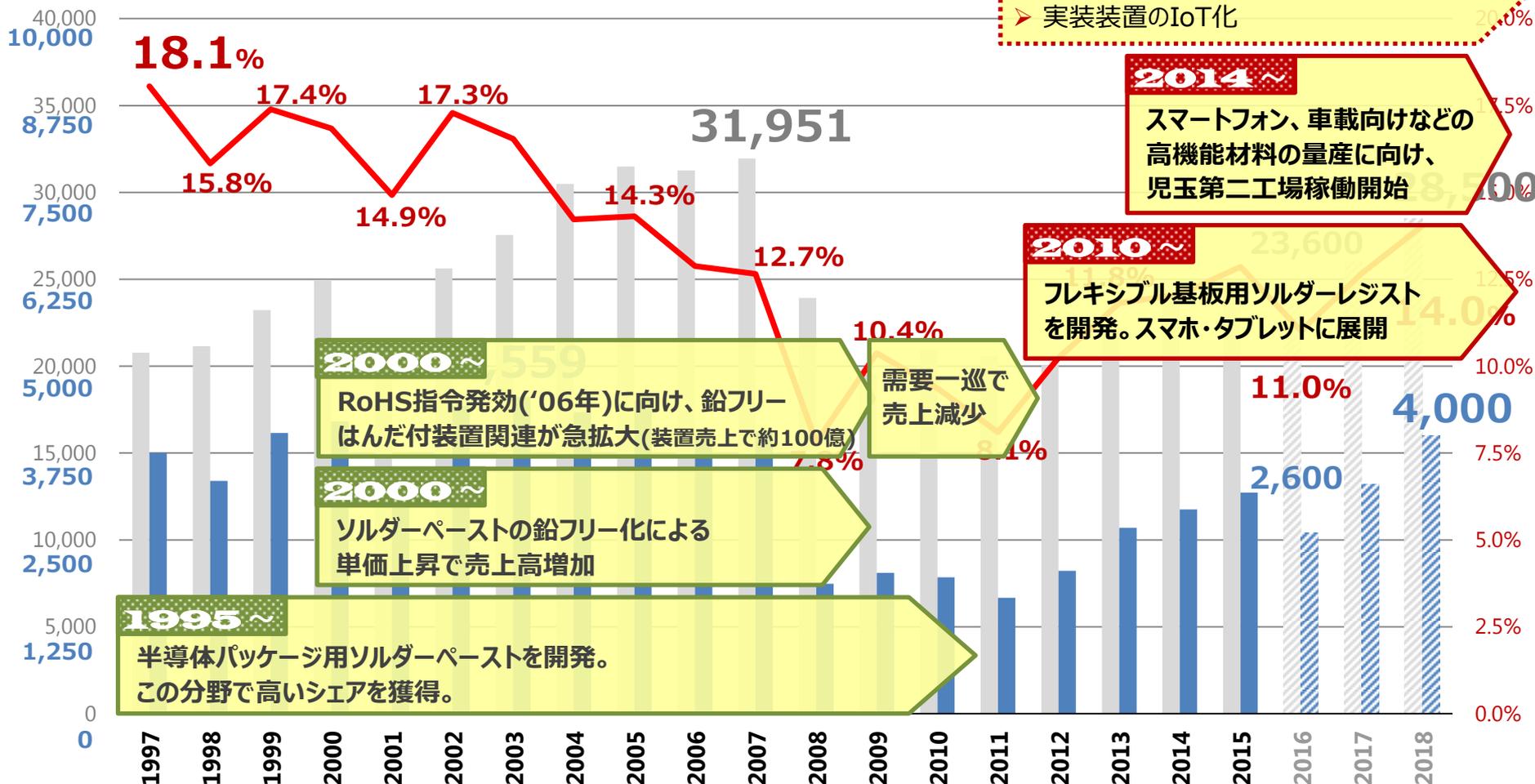
どのような市場環境下でも利益を創出し、
グループ業績を支えている。



電子化学実装事業の業績推移②

- どのような市場環境下でも利益を創出し、グループ業績を支えている。
- 足元では、急激な円高の影響を受けてやや減収。為替・素材価格変動リスクに対応できる経営体制作りを急ぎ進めている。
- 中期計画では、業界のリーディングカンパニーとして、市場ニーズに応える製品開発を推進中。

売上: 百万円
利益: 百万円



中期計画 (2016-2018) 成長戦略

- 車載市場: 大電流・高電圧対応、高信頼
- IoT市場: ファインピッチ化・薄型化
- 実装装置のIoT化

2014~

スマートフォン、車載向けなどの高機能材料の量産に向け、児玉第二工場稼働開始

2010~

フレキシブル基板用ソルダーレジストを開発。スマホ・タブレットに展開

2000~

RoHS指令発効('06年)に向け、鉛フリーはんだ付装置関連が急拡大(装置売上で約100億)

2000~

ソルダーペーストの鉛フリー化による単価上昇で売上高増加

1995~

半導体パッケージ用ソルダーペーストを開発。この分野で高いシェアを獲得。

■ サーマル事業および同事業製造会社の持分の譲渡

- 当社は、平成28年10月27日開催の取締役会において、内橋エステック株式会社（以下、「内橋エステック」）に対して、当社の電子部品事業のうち、サーマル事業（温度ヒューズ・温度ヒューズ付抵抗器の製造・販売）および当社連結子会社（孫会社）であり同事業の製造会社である安全電具（惠州）有限公司の持分を譲渡することを決議しました。
- 当社は、2018年度をターゲットとする第11次中期経営計画で、収益性の向上を第一の目標とし、資本効率の向上やお客様に価値ある「オンリーワン製品」を提供することを目指しています。
- 昨今、サーマル事業を取り巻く市場環境は厳しさを増しており、それは当社と同じくサーマル事業を展開している内橋エステックも同様で、それぞれが競合している状況でした。
- 当社と内橋エステックの有するノウハウおよび経営資源を結集することで、今後もお客様に安定的・継続的に製品を供給すると共に、当社は事業の集中と選択を進めます。
- 持分譲渡日は2017年3月31日の予定です。



温度ヒューズ

4. 製品情報

■ HVDC（高圧直流）可飽和水冷リアクタ

- 直流送電用の水冷式可飽和リアクタは、発電所にてつくられた電気をより効率的に運ぶために利用される直流送電システムに必要不可欠な直流変換装置に利用されます。
- 大容量かつ高電圧のため、使用されるリアクタも巨大なものとなり、装置自体を大きくする要因になりますが、タムラ製作所では、リアクタの巻き線部分をパイプ状の管のように加工し、その中に水を通しながら冷やす直冷式を採用することで、従来品より小型化を実現しました。



HVDC（高圧直流）可飽和水冷リアクタ



■ ソルダーレジスト「PAFLE PAF-300-14」

- フレキシブルプリント配線基板（FPC）用のソルダーレジストです。
- 従来製品に比較し2分の1、一般的に使用されているカバーレイフィルムと比較すると、10分の1に塗膜反発力を低減しました。
- これにより、狭いスペースでのFPCの組み込み作業性の向上や液晶ディスプレイの薄型化に伴う画像の不具合の低減に効果的です。
- 今後はモバイル用途のディスプレイ周りに展開し、グローバルに拡販を進めていきます。



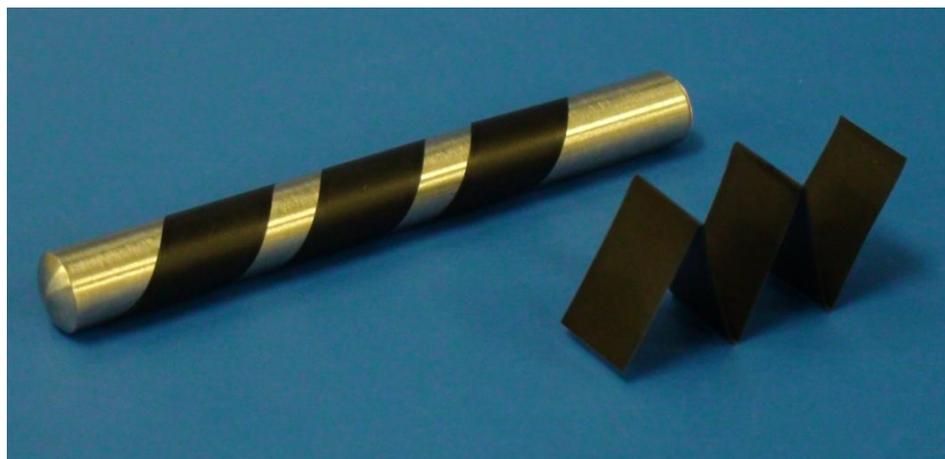
従来品



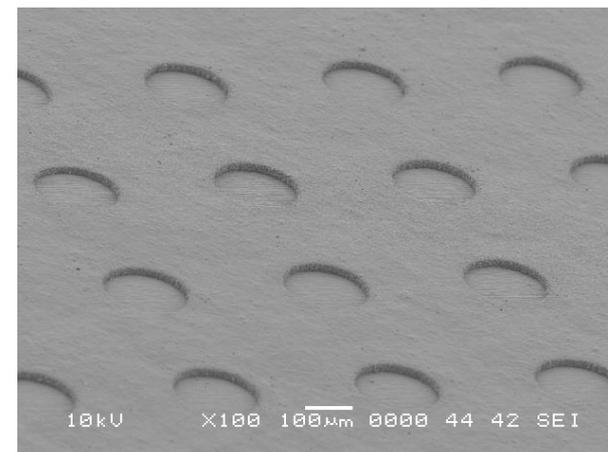
PAF-300-14

■ ソルダーレジスト「ABSOLIGHT APB-300-21」

- ハロゲンフリータイプのフレキシブルプリント配線基板（FPC）用のソルダーレジストです。
- 従来製品に比較し低露光量で画像形成することができ、DI（ダイレクトイメージング）露光機に対応しております。
- これにより、良好な位置合わせ精度による設計の自由度や歩留まり性の向上に加え、低タクトでの露光やフィルムレス化を実現しております。
- 今後はモバイル用途に展開し、グローバルに拡販を進めていきます。



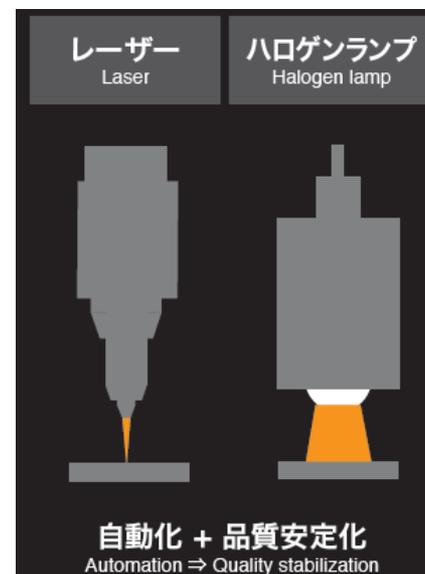
ABSOLIGHT APB-300-21



開口パターンの形成SEM写真

■ ソルダーペースト「LFSOLDER LSM10-204-02」

- ディスペンサー対応ノンハロゲンペーストです。
- 安定した連続吐出が可能です。
- レーザーやハロゲンランプなどの加熱方式においてもはんだ飛散を抑制。
- 手はんだ工程からの自動化・品質安定化に最適です。
- 部品市場をはじめとして、民生・車載市場へ拡販を致します。



■ 駅用ワイヤレスマイク「WTH-326Xシリーズ」が西武鉄道で採用

- 「WTH-326Xシリーズ」は、乗務員用マイク「WTH-3262」と構内駅員用マイク「WTH-3260」の2種の駅用ワイヤレスマイクとなります。
- 内部構造や部品の見直しを行うことで、従来の駅用ワイヤレスマイクに比べ、スイッチ耐久性及び衝撃耐性を向上させるとともに、防滴性能を付加しました。
- 電源部を専用組電池ではなく、市販の単4形ニッケル水素二次電池にすることで、安全性だけでなく、ランニングコストの低減も期待できます。
- 製品の特性だけでなく、長期運用を安全に問題なく行えるようなサポート体制の提案も行ったことも高く評価していただきました。2016年3月以降、順次使用が開始されております。

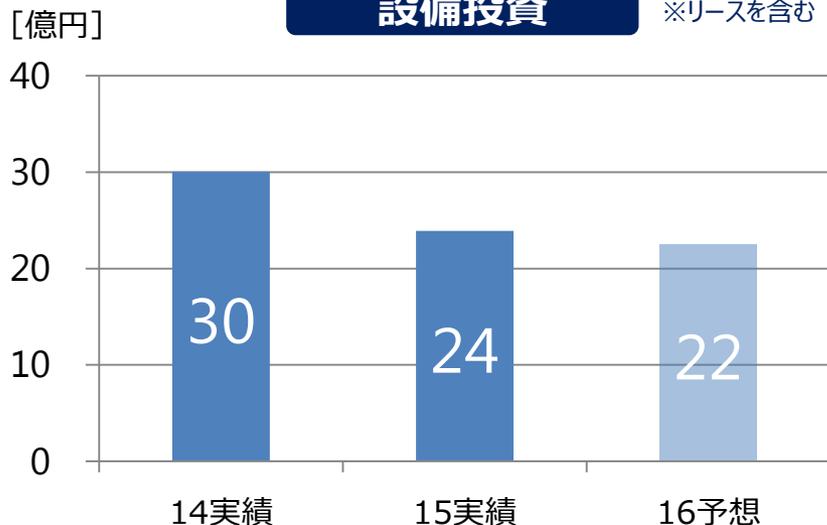


乗務員用マイク「WTH-3262」(左)

構内駅員用マイク「WTH-3260」(右)

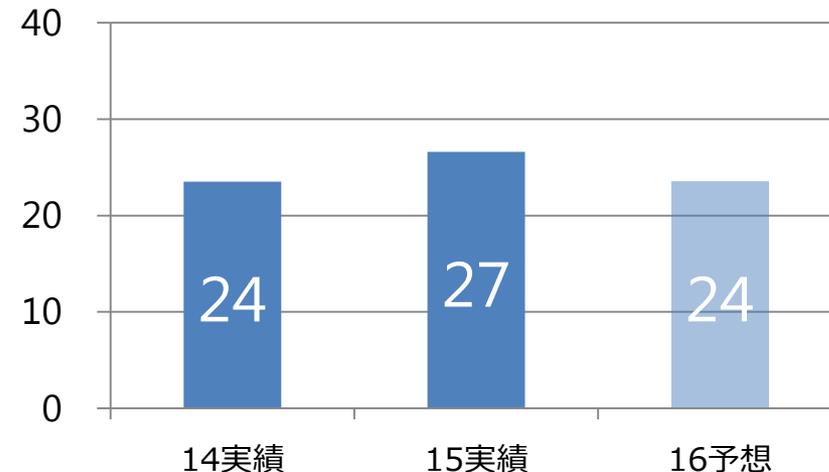
設備投資

※リースを含む



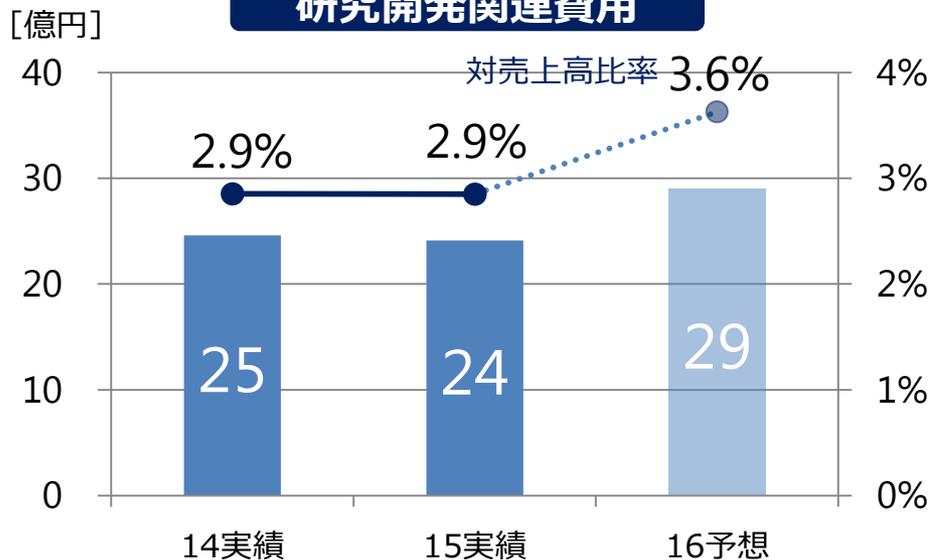
減価償却費

[億円]



研究開発関連費用

※注



主な設備投資

- 電子部品：車載関連生産設備増強
- 電子化学：生産設備増強

主な開発投資

- 電子化学材料 新素材関連
- 車載用電子部品関連
- 次世代ワイヤレス技術
- センシング技術
- セミコン・結晶開発（酸化ガリウム）関連

※注 「研究開発関連費用」は、研究開発テーマに関わる経費・労務費・設備投資などを、当社の基準で集計している値です。2016年度3Q以降、研究開発テーマの選定基準を変更したため2016年度の「研究開発関連費用」の値が増加しております。

ご清聴ありがとうございました

The TAMURA logo is repeated in the bottom right corner. It consists of the word "TAMURA" in blue, with a red swoosh above the "A" and "R".

Your One and Only Company

本資料及び引き続き行われる質疑応答の回答の際の業績予想、見通し及び事業計画については、現時点における将来環境予測等の仮定に基づいております。

本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。

株式会社タムラ製作所
経営管理本部 経理統括部 経営支援・IRグループ
TEL : 03-3978-2031



Your One and Only Company